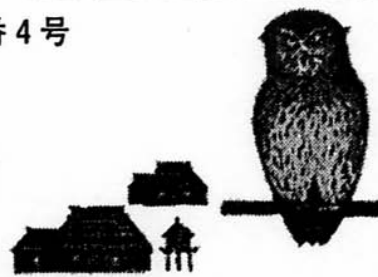


財団法人アイヌ民族博物館 北海道白老町若草町2丁目3番4号

コタンメール

第13号 平成17年3月15日 発行



第1回ポロトコタンのエカシとフッチ展

「森竹竹市」開催中

昭和40年より、ポロトコタンでアイヌ文化の紹介、伝承活動を行ってきた、たくさんの方のエカシとフッチがおりました。私たちはこれらの方々にスポットをあててみようと考えました。その第一弾として取り上げたのが、差別と蔑視の中でアイヌ民族の誇りを取り戻そうと、俳句、短歌、詩を使っのアイヌ民族復権を訴えた森竹竹市です。

白老の第二尋常小学校を卒業し、鉄道員になって差別に直面。その苦悩を詩や短歌によって表現した森竹は、晩年、白老民俗資料館の館長になってアイヌ文化の普及に努めました。

彼の作品を通して、昭和の時代を生きた一人のアイヌの歴史を見つめてください。

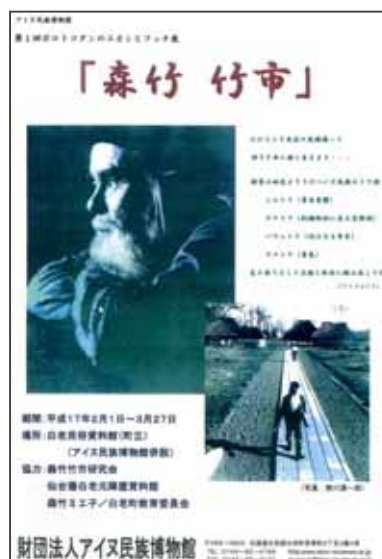
「森竹竹市」展は3月27日（日）まで、
アイヌ民族博物館で開催しています。
町民の方々は、入館無料です。

特別展のようす



↑ 展示に見入る観覧者

← 創作メモ帳
などの展示品



森竹竹市展のポスター

ミュージアムトーク「森竹竹市」

3月12日（土）に開催したミュージアムトークでは、講師の山本融^{ゆうじょう}定^{じょう}氏が、森竹竹一が生まれた時代背景などについて講演されました。

森竹竹一が生まれたのは、日本が近代国家としての道を歩み始めた時と同時期でした。できたばかりの大日本帝国憲法は、国家中心の、人権無視の憲法だったのですが、とりわけ先住民族アイヌは、北海道開拓の移民や、屯田兵の移住などの北海道開拓政策によって、生活の場をうばわれ、差別と蔑^{べっし}視の毎日を送ることになります。

更に、森竹の少年期から青年期にかけては、日本に軍国主義の嵐が吹き、昭和初期の世界恐慌（1929年）も加わって、経済は疲弊^{ひへい}し、生活は苦しくなっていました。

公私の生活の挫折の中で、戦後、アイヌ文化の語り部としての道を歩み始めた森竹は、歌人としての才能をあわせて、「民族の復権」を目指します。

森竹竹市に触れて、民族の誇りに目覚めた人は少なくありません。その人達はまた、それぞれの活動を通じて、アイヌ民族の復権のために大きな仕事の業績を残されています。

「私は、森竹の研究を通して、結局は自分自身の復権をはたしているのではないか」という結びの言葉が印象的でした。



スライドを使いながらの講演の様子

● 3月の予定

| | | | |
|----|-----|---|-----------------------------|
| 3月 | 22日 | 火 | アイヌ語教室 「ユカラを読む5」大須賀るえ子先生 |
| | 29日 | 火 | アイヌ語教室 「ユカラを読む6」大須賀るえ子先生 |

アイヌ文化伝承保存事業開始

3月3日（木）から1ヶ月間、

- ・チセの茅葺き作業
- ・文化財整理
- ・アイヌ民族工芸品製作

の仕事をする人たちが、アイヌ民族博物館で働いています。

これは博物館の大切な仕事である、「文化伝承」を白老町の支援のもとに行っているもので、参加している人たちは、それぞれの技術の習得や向上に熱心に努めています。



屋根の茅の葺き替え作業

（雨もりや、茅の痛みがはげしいチセの屋根を葺き替えています。）

編集後記

今月はじめ、中村館長がインフルエンザにかかりました。いつも元気でタフな館長だったのが、椅子に座って体を起こしている状態を保てないほど、憔悴^{せうすい}しきっている姿を初めて見、ショックを受けました。だけど、伝承課の倉部さんからもらったギョウジャンニクを焼酎につけたお酒を飲んだら、完治

するのに2週間といわれているのが、5日後にはほとんど回復していました。そして館長の言葉「さすがギョウジャンニクの効き目。イカラカラで高値にて販売しよう。見本はわし自身じゃ。」館長の見本がついて売れるでしょうか？みなさんどうぞカゼにはお気をつけて。 木田瑞恵

● コタンメールはホームページでも見られます。

THE AINU MUSEUM アイヌ民族博物館

URL : <http://www.ainu-museum.or.jp>

E-mail : museum@ainu-museum.or.jp